

平成 26 年度 事業計画

[本年度の目標]

本学会の公益目的事業の円滑な遂行を図るとともに社会との接点を広げ、学術研究の成果として得られる情報を学会内で学の立場から統合・整理・発展させ、かつ広く社会に発信していく活動を充実させるため、以下の事業を行う。また、平成 24 年度より設置された東日本大震災災害復興支援検討委員会での審議に基づいて、東日本大震災の被災地における水産業の復興支援に係る事業を本年度も継続して行うこととする。

1. 役員会・組織運営等に関する事項

(1) 総会

a) 定時社員総会は、定款第 13 条に基づき、平成 26 年 3 月 29 日に開催する。また、必要がある場合には臨時社員総会を開催する。

(2) 理事会

b) 通常理事会は、定款第 29 条及び理事会運営規程第 2 条 2 項に基づき、7 回開催する。また、理事会運営規程第 2 条 3 項による臨時理事会は随時開催する。

(3) 支部

a) 北海道支部

支部総会を年 1 回、支部幹事会を年 1 回開催する（開催日未定）。

b) 東北支部

支部総会を年 1 回（平成 27 年 2 月予定）、支部幹事会を年 2 回、支部連絡調整員会議を年 1 回開催する。

c) 関東支部

支部幹事会を年 1 回開催する（開催日未定）。

d) 中部支部

支部幹事会を年 1 回開催する（開催日未定）。

e) 近畿支部

支部幹事会を年 1 回開催する（開催日未定）。

f) 中国・四国支部

支部幹事会を年 1 回開催する（開催日未定）。

g) 九州支部

支部総会を年 1 回（平成 27 年 1 月下旬）、支部幹事会を年 3 回（平成 26 年 6 月、9 月下旬～10 月上旬、平成 27 年 1 月下旬）開催する。

(4) 委員会

a) 編集委員会

学会誌の編集方針、原稿の書き方、印刷物の体裁、オンライン投稿と編集作業に関する手続き等及び論文賞候補の推薦に係る必要事項を審議するため、年 4 回定期的に開催するほか、必要に応じて随時開催する。

b) 企画広報委員会

和文誌に掲載する記事の企画を行うほか、和文誌の編集発行、学会ホームページの運営及び新たな事業の企画と広報に関する業務について審議するため、隔月 1 回開催するほか、必要に応じて随時開催する。

c) 学会賞選考委員会

学会賞受賞者の推薦に関する事項を審議するため、学会賞授賞規程第 5 条に基づき、年 2 回以上開催する。

d) シンポジウム企画委員会

シンポジウムとミニシンポジウムの題目、企画責任者、及び水産学シリーズへの刊行の推薦について審議するため、年 2 回開催するほか、必要に応じて随時開催する。

e) 出版委員会

水産学シリーズの出版企画、水産学シリーズ以外の学術図書の出版企画、出版社との契約事項等を審議するため、年 2 回開催するほか、必要に応じて随時開催する。

f) ベルソープックス委員会

ベルソープックスの企画・編集、一般向け図書の企画刊行に関する事項を審議するため、年 2 回開催するほか、必要に応じて

- て随時開催する。
- g) 水産環境保全委員会
水産環境の保全に関連する諸事項について審議し、理事会の承認を得て行うシンポジウム、講演会の企画・開催等の関連する業務を行うため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。
- h) 漁業懇話会委員会
懇話会、講演会、研究会等の企画、開催に関する事項を審議するため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。
- i) 水産利用懇話会委員会
懇話会、講演会、研究会等の企画、開催に関する事項を審議するため、年3回開催するほか、必要に応じて随時開催する。
- j) 水産増殖懇話会委員会
懇話会、講演会、研究会等の企画、開催に関する事項を審議するため、年3回開催するほか、必要に応じて随時開催する。
- k) 国際交流委員会
国際交流に関する諸事項を審議するため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。
- l) 選挙管理委員会
理事及び監事の候補者、学会賞選考委員の選挙ならびに役員の欠員のための選挙に関する審議、業務を行うため、必要に応じて随時開催する。
- m) 水産教育推進委員会
水産教育にかかわる事項について審議し、理事会の承認を得て行う事業を実施するため、年4回開催する。
- n) 水産技術誌監修委員会
水産分野の技術者、研究者、事業者等を対象として独立行政法人水産総合研究センターが企画・編集し、定期的に刊行する和文誌「水産技術」について、編集の方針を提示し、編集の監督を行うため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。
- o) 水産政策委員会
会長あるいは理事会の諮問に対応して各種の提言案を作成し、理事会に答申するため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。
- p) 男女共同参画推進委員会
本学会における男女共同参画に関する諸事項を審議し、関連の業務を行うため、年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。

[公益目的事業 1]

研究発表会及び学術講演会・シンポジウムの開催ならびに研究業績の表彰による水産学の学術の発展と科学技術の振興を推進するため、以下の事業を行う。

2. 研究発表会及び学術講演会等の開催による水産学研究の推進事業（定款第4条1項1号に定める事業）

(1) 研究発表会

- a) 春季大会：平成26年3月27日（木）～3月31日（月）
於北海道大学水産学部（北海道函館市）
大会委員長 嵯峨直恆
研究発表 口頭、ポスター
高校生によるポスター発表
シンポジウム 2件、ミニシンポジウム 3件
平成25年度学会賞受賞者講演10題
- b) 秋季大会：平成26年9月19日（金）～9月22日（月）
於九州大学箱崎キャンパス（福岡県福岡市）
大会委員長 松山倫也
研究発表 口頭、ポスター
シンポジウム、ミニシンポジウムの開催

(2) シンポジウム

春季大会開催時（平成26年3月27日、於北海道大学水産学部）

- a) 「スサビノリの持続的生産への挑戦」
企画責任者：三上浩司・小林正裕・川村嘉心・二羽恭介

b)「八タ科魚類における繁殖の生理生態と種苗生産」

企画責任者：征矢野 清・照屋和久・中田 久

秋季大会開催時（平成26年9月19日，22日，於九州大学）

数件を開催予定

(3) ミニシンポジウム

春季大会開催時（平成26年3月31日，於北海道大学水産学部）

a)「水産物の生産・加工・流通段階を保障するリスク管理研究の最新動向」

企画責任者：澤辺智雄・里見正隆・山崎浩司

b)「データ高回収率を実現するバイオロギングシステムの構築 ～魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む～」

企画責任者：宮下和士・北川貴士・宮本佳則・荒井修亮

c)「微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望」

企画責任者：石川智士・林崎健一・吉川 尚・富永 修・中野孝教

秋季大会開催時（平成26年9月19日，22日，於九州大学）

数件を開催予定

(4) 各支部が行う研究発表会及び講演会

a) 北海道支部

支部大会の開催（シンポジウム，一般講演・若手の会講演会，開催日未定）

b) 東北支部

支部大会の開催（平成26年11月予定）

支部例会の開催（平成27年2月予定）

c) 関東支部

研究発表または講演会の開催（開催日未定）

d) 中部支部

支部大会の開催（ポスター発表，シンポジウム，開催日未定）

e) 近畿支部

支部前期例会の開催（シンポジウム，開催日未定）

支部後期例会の開催（研究発表，平成26年12月予定）

f) 中国・四国支部

支部例会の開催（開催日未定）

g) 九州支部

支部例会の開催（シンポジウム，平成26年9月下旬～10月上旬予定）

支部大会の開催（一般講演，高校生によるポスター研究発表，平成27年1月下旬予定）

(5) 各委員会が行う研究発表会及び講演会

a) 企画広報委員会

勉強会「震災からの復興 - 水産研究に求められる視点 -」の開催（平成26年3月27日，於北海道大学水産学部）

b) 水産環境保全委員会

シンポジウム「地震・津波から3年後の東北地方太平洋沿岸域の現状」 - 天災による自然攪乱と修復による人為的攪乱 の開催（平成26年3月27日，於北海道大学水産学部）

研究会の開催（平成26年度日本水産学会秋季大会時，於九州大学）

沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウムの開催（開催日未定）

c) 漁業懇話会委員会

第63回講演会「北海道における海獣による漁業被害の現状と野生動物との共存」の開催（平成26年3月27日，於北海道大学水産学部）

第64回講演会の開催（平成26年9月19日，於九州大学）

漁業懇話会報の発行

d) 水産利用懇話会委員会

平成26年度第1回講演会の開催（平成26年10月予定）

平成26年度第2回講演会の開催（平成27年2月予定）

e) 水産増殖懇話会委員会

平成26年度第1回講演会「西日本における海藻養殖の現状と課題（仮題）」の開催（平成26年9月19日，於九州大学）

平成26年度第2回講演会の開催(平成26年12月~平成27年2月予定)

f) 国際交流委員会

第2回日米英水産学会合同シンポジウムの開催(平成26年8月, カナダ・ケベックシティ)

第2回日中韓合同シンポジウムの開催(平成26年5月, 中国・青島市)

g) 水産政策委員会

「海の恵みと食料安全保障を考える産学国際シンポジウム」- 海外から見た我が国水産資源管理の評価と今後のあり方 - の開催(平成26年3月7日, 於東京海洋大学品川キャンパス)

h) その他

3. 関連学会等との連携及び協力ならびに社会連携の推進事業(定款第4条1項3号に定める事業)

(1) 関連学会等との連絡及び協力

a) 第51回アイソトープ・放射線研究発表会の共催

主催 日本アイソトープ協会, 共催 応用物理学会 他61学協会

平成26年7月7日~9日, 於東京大学弥生講堂(東京都文京区)

b) 農学会・日本農学アカデミー共同主催シンポジウム「放射性物質の除染・汚染水漏洩の現状を問う!」の協賛

主催 農学会, 日本農学アカデミー, 後援 東京大学大学院農学生命科学研究科, 協賛 ワールド ウォッチ ジャパン 他4団体

平成26年3月9日, 於東京大学農学部 弥生講堂

c) 第24回海洋工学シンポジウムの協賛

主催 日本船舶海洋工学会, 日本海洋工学会, 協賛 海洋音響学会 他31団体

平成26年3月13日・14日, 於日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館

d) 食品ハイドロコロイドセミナー2014の協賛

主催 食品ハイドロコロイド研究会, 協賛 化学工学会 他24学協会

平成26年5月22日, 於東京海洋大学品川キャンパス楽水会館鈴木善幸ホール(東京都港区)

e) 第25回食品ハイドロコロイドシンポジウムの協賛

主催 食品ハイドロコロイド研究会, 協賛 化学工学会 他24学協会

平成26年5月23日, 於東京海洋大学品川キャンパス楽水会館鈴木善幸ホール

f) 第16回マリンバイオテクノロジー学会大会の協賛

主催 マリンバイオテクノロジー学会, 協賛 日本化学会 他25学協会

平成26年5月31日・6月1日, 於三重大学生物資源学部校舎(三重県津市)

g) The 2nd International Conference of D-Amino Acid Research (第2回D-アミノ酸国際学会)の協賛

主催 第2回D-アミノ酸国際学会組織委員会, 協賛 日本生化学会 他9学協会

平成26年9月2日~5日, 於栃木県総合文化センター(栃木県宇都宮市)

h) 女性研究者研究活動支援事業 総括シンポジウム「海と共に生きる女性研究者たちの今。そしてこれから。」の後援

主催 東京海洋大学

平成26年3月5日, 於東京海洋大学品川キャンパス白鷹館1階講義室(東京都港区)

i) その他, 関連学会等が主催する講演会等の共催, 協賛, 後援

(2) 日本学術会議が行う事業への協力

(3) 日本農学会が行う事業への協力

(4) (公財)農学会が行う事業への協力

a) 技術者教育推進委員会委員を派遣

(5) 水産・海洋科学研究連絡協議会参加及び代表を派遣

(6) 海外との学术交流等

a) 第145回アメリカ水産学会大会(2014年8月, カナダ・ケベックシティ)へ代表者及び委員の派遣

b) 第2回日米英水産学会合同シンポジウム(カナダ・ケベックシティ)への代表者及び招待講演者の派遣

c) 韓国水産科学学会大会(2014年11月)への代表者, 委員及び招待講演者の派遣

d) 第2回日中韓水産学会合同シンポジウム(2014年5月, 中国・青島市)の開催及び講演者の派遣

e) 中国水産学会大会への代表者, 委員及び招待講演者の派遣

f) アジア水産学会評議員会への代表者及び委員の派遣

g) 世界水産学協議会, FAO, PICESとの連携

- h) JICA, 若手会員に対するインターンシップ, 海外水産関係大会の参加等水産教育プログラムの推進
 - i) その他, 文献交換の斡旋, 外国人研究者との交流等海外との学术交流に関する事業
- (7) 水産技術誌の監修
- a) 水産分野の技術者, 研究者, 事業者等を対象として独立行政法人水産総合研究センターが企画・編集し, 定期的に刊行する和文誌「水産技術」を監修する。
- (8) 第34回「海とさかな」自由研究・作品コンクールへの協力
- a) 小学生を対象とした, 朝日学生新聞社主催の海と魚をテーマとした作品コンクールにおいて, 募集ポスターやガイドブックの配付, ガイドブックの監修, 出張講義の講師派遣および審査員派遣等の協力をを行う。
- (9) 東日本大震災災害復興支援に関する活動
- a) 東日本大震災災害復興支援検討委員会での審議に基づき活動を行う。
- (10) 男女共同参画の推進
- a) 男女共同参画学協会連絡会主催シンポジウムへの出席及びポスター展示。
 - b) 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査(男女共同参画学協会連絡会大型アンケート調査)に関する報告書発行。
- (11) その他

4. 研究業績の表彰による学術の発展と科学技術の振興事業(定款第4条1項4号に定める事業)

- (1) 日本水産学会における賞の授与
- 学会賞授賞規程に基づき, 以下の賞を授与する。
- a) 日本水産学会賞
 - b) 日本水産学会功績賞
 - c) 水産学進歩賞
 - d) 水産学奨励賞
 - e) 水産学技術賞
- (2) 日本水産学会論文賞の授与
- 論文賞授賞規程に基づき, 日本水産学会論文賞を授与する。
- (3) 各支部・委員会等における表彰
- (4) 「海とさかな」自由研究・作品コンクールにおける日本水産学会会長賞の授与
- (5) 他の学術関係の賞等に対する候補者の推薦

[公益目的事業2]

水産学に関する学会誌及び学術図書の発行, 及びインターネットによる情報提供を通じて, 水産学研究の科学技術成果の普及を行うため, 以下の事業を行う。

5. 学会誌及び学術図書の刊行による水産学研究の普及事業(定款第4条1項2号に定める事業)

- (1) 学会誌の発行
- a) 日本水産学会誌第80巻2号～第81巻1号まで計6冊[報文65編, 総説, 企画記事, 会告, 会報等総ページ約1,300ページ(各号4,300部発行予定)]
 - b) Fisheries Science 第80巻2号～第81巻1号まで計6冊[報文120編, 総説等総ページ約1,500ページ(各号450部発行予定)]
- (2) 水産学シリーズの刊行
- a) 第179号「メチル水銀のリスクと魚食のベネフィット」山下倫明編, 平成26年3月下旬, 300部刊行予定
 - b) 第180号「真珠研究の最前線 真珠形成メカニズムから養殖技術革新へ(仮題)」淡路雅彦編, 平成26年9月下旬, 300部刊行予定
- (3) ベルソープックスの刊行
- a) 第43号～45号, 1,500～2,000部発行予定
 - b) その他, 既刊重版 各500～1,000部発行予定
- (4) 日本水産学会誌のJ-STAGE上における公開